

機械器具 72 視力補正用レンズ
高度管理医療機器 再使用可能な視力補正用色付コンタクトレンズ 32803000
(ソフトコンタクトレンズ)
メニコンソフト MA

****【警告】**

- コンタクトレンズの装用により、角膜潰瘍、角膜炎（感染性角膜炎も含む）、角膜浸潤、角膜びらん等の角膜上皮障害、角膜浮腫、結膜炎（巨大乳頭結膜炎を含む）、虹彩炎、角膜血管新生等が発症する可能性及び角膜内皮細胞の減少を早める可能性があります。
- レンズ装用による眼障害の中には、治療せずに放置すると失明につながるものがあります。

上記の眼障害を起こさないようにするためにも、コンタクトレンズを処方する際は、次のことを患者に指導してください。

・装用時間を正しく守ること

レンズの装用時間には個人差がある。眼科医から指示された装用時間を守る。

・取扱方法を守り正しく使用すること

レンズやケア用品の取扱方法を誤ると眼障害につながる。レンズやケア用品（特にレンズケース）は、清潔に保ち、正しい取扱方法で使用する。

・定期検査を受けること

自覚症状がなく調子よく装用していても眼やレンズにキズがついたり、眼障害が進行していることがある。異常がなくても眼科医に指示された定期検査を必ず受ける。

・少しでも異常を感じたら直ちに眼科医の検査を受けること

レンズをはめる前に、毎日、自分で眼脂や充血がないか、またレンズをはめた後も、異物感等がないか確認し、少しでもこれらの異常を感じたら、すぐに眼科医の検査を受ける。

・破損等の不具合があるレンズは絶対に使用しないこと

装用前に、レンズに破損等の不具合がないか必ず確認し、不具合が認められたレンズは絶対に装用しない。万が一、破損等の不具合があるレンズを装用してしまったり、レンズが装用中に破損した場合は、自覚症状の有無にかかわらず、速やかに眼科医の検査を受ける。

****【禁忌・禁止】**

- ・前眼部の急性及び亜急性炎症
- ・眼感染症
- ・ぶどう膜炎
- ・角膜知覚低下
- ・レンズ装用に問題となる程度のドライアイ及び涙器疾患
- ・眼瞼異常
- ・レンズ装用に影響を与える程度のアレルギー疾患
- ・常時、乾燥した生活環境にいる患者
- ・粉塵、薬品等が眼に入りやすい生活環境にいる患者
- ・その他のレンズ装用に適さない疾患

****【適用対象（患者）禁忌・禁止】**

- ・医師の指示に従うことが出来ない患者
- ・レンズを適切に使用できない患者
- ・定期検査を受けられない患者
- ・レンズ装用に必要な衛生管理を行えない患者

【形状・構造及び原理等】

1. 組成等

- 1) 主成分：2-ヒドロキシエチルメタクリレート
- 2) 着色剤：フタロシアニン系着色剤
- 3) ソフトコンタクトレンズ分類：グループ I
- 4) 保存液の主成分：塩化ナトリウム

2. レンズデザイン

1) 主な諸元値

B.C. 8.40mm / P. -3.00D / DIA. 13.0mm の場合

中心厚み	外面光学部	内面光学部	外面ベベル	内面ベベル
0.09mm	9.0mm	11.8mm	2.0mm	0.6mm

2) レンズ外面周辺部は非球面形状

3) メニコンマーク (☼)、ベースカーブ及び直径を表すマークが入っています。

3. 製作範囲

直径 (mm)	12.0	12.5	13.0	13.5	14.0
ベースカーブ (mm)					
7.50	●	●			
7.80	●	●	●		
8.10	●	●	●	●	
8.40	●	●	●	●	●
8.70	●	●	●	●	●
9.00	●	●	●	●	●
9.30		●	●	●	●
9.60			●	●	●
9.90				●	●
P.(D)	- 25.00D ~ + 25.00D (0.25D 間隔)				

・表中の●印は作製が可能な組み合わせです。

**・本ベースカーブは、レンズ光軸上の頂点曲率半径を示します。

・球面度数は0.25D間隔です。

・最新の製作範囲や納期については弊社営業所までお問合せください。

4. トライアルレンズの規格

1) 近視用

ベースカーブ (B.C.)	球面度数 (P.)	直径 (DIA.)
7.80, 8.10, 8.40, 8.70mm	-3.00D	13.0, 13.5mm

2) 無水晶体眼用

ベースカーブ (B.C.)	球面度数 (P.)	直径 (DIA.)
8.10, 8.40, 8.70, 9.00mm	+15.00D	13.0, 13.5mm

**・トライアルレンズにはメニコンマーク (☼)、ベースカーブ及び直径を表すマークが入っています。

・その他の規格については弊社営業所までお問合せください。

****5. 原理**

コンタクトレンズに付加された頂点屈折力により視力を補正します。

****【使用目的、効能又は効果】**

近視、遠視、無水晶体眼の視力補正

【品目仕様等】

- ** 1) 酸素透過係数 : 9×10^{-11} (cm²/sec) · (mLO₂ / (mL × mmHg))
・ISO18369-4 (電極法) に準拠する。
- 2) 含水率 : 37.5%
- 3) 屈折率 : 1.44
- 4) 視感透過率 : 95% 以上

****【操作方法又は使用方法等】**

終日装用、化学消毒又は煮沸消毒

【使用方法に関連する使用上の注意】等

1. 処方手順

- 1) 問診
- 2) 前眼部検査及び眼底検査
- 3) 視力検査
- 4) 角膜形状測定
- 5) 屈折検査
- 6) トライアルレンズの選定

トライアルレンズは、角膜横径と角膜曲率半径中間値を基準に選択します。ただし、これは最初のトライアルレンズを選択する目安となるものですから、最終的な規格決定は、フィッティング検査により行ってください。

(1) レンズ直径

角膜横径を基準に選択します。平均的な角膜横径では、13.0mmを選択することになります。

角膜横径	≤ 12.0mm	12.0mm <
直径	13.0mm	13.5mm

(2) ベースカーブ

角膜曲率半径の中間値又は弱主経線値を基にして表の基準を参考に選択してください。

角膜曲率半径中間値	～ 7.50mm	7.51 ～ 7.90mm	7.91mm ～
弱主経線値	～ 7.60mm	7.61 ～ 8.00mm	8.01mm ～
ベースカーブ	8.10mm	8.40mm	8.70mm

7) フィッティング検査

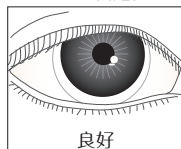
レンズが角膜上で安定した状態になるために、15分程度のテスト装用を行った後、フィッティング検査を行ってください。

8) 処方判定と判定基準

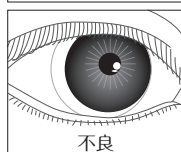
(1) レンズの安定位置の検査

正面視においてレンズが角膜を十分に覆っていることを確認します。レンズが瞬目により角膜からずれて適切な安定位置に戻らない場合は、ルーズフィットと思われるので、ベースカーブを小さくします。ベースカーブだけで対応できない場合は、レンズ直径を大きくします。

《レンズの安定位置》



良好



不良

(2) レンズの動きの検査

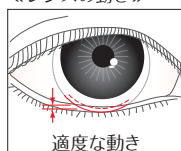
《レンズの動きが1.5mmを超えるような場合》

ルーズフィットと考えられますので、ベースカーブを小さくします。ベースカーブだけで対応できない場合は、レンズ直径を大きくします。

《レンズの動きが0.5mmより小さい場合》

タイトフィットと考えられますので、ベースカーブを大きくします。ベースカーブだけで対応できない場合は、レンズ直径を小さくします。

《レンズの動き》



適度な動き

9) 追加矯正

トライアルレンズの上から追加矯正を行いレンズ度数を決定します。追加矯正が±4.00D以上の場合は頂間距離の換算が必要です。

10) 処方決定

フィッティングの判定及び追加矯正の結果より処方データを決定してください。

**11) 患者指導

患者に対し【操作方法又は使用方法等】、2. レンズ装着脱及び6. 患者指導に記載する内容をご指導ください。

2. レンズ装着脱

レンズにふれる前に、必ずせっけんで手を洗い清潔にしてください。また、レンズを取扱うときは、爪を短く切り、丸くなめらかに整えておいてください。

1) 処方時の医師によるレンズ装着脱

(1) レンズのはめ方

① レンズをケースから取り出し、レンズをはめる手の人さし指の先にのせます。このとき、レンズの裏表が正しくなっているかを確認してください（図A）。

② 患者に下方視させ、レンズをのせている手の中指で下眼瞼をさげ、もう一方の手の人さし指で上眼瞼をあげます。このとき、まつ毛のはえぎわを押さえます（図B）。

③ レンズを角膜から白眼あたりにそっとのせます（図C）。

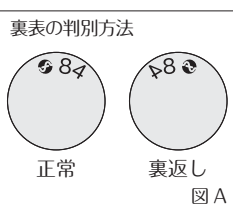
注意）レンズをのせるときは、眼に強く押しつけたり、爪を立てたりしないで行ってください。レンズ内面がまつ毛に触れるとほこり等がつき、うまくはめられないことがあります。

④ レンズが角膜にのったことを確認した後、指を眼瞼からゆっくりはなし、患者に正面視をさせます。その後、レンズが角膜に正しくのっているか、痛みがないかを確認します。痛みがある場合は、レンズをはずし、洗浄、すすぎ後、再度はめてください。

注意）検査時にははずした患者のレンズを再度はめるときは、すすいでからはめてください。なお、レンズに汚れが認められる場合は、洗浄、すすぎ後、レンズがきれいになったことを確認してからはめてください。

(2) レンズのはずし方

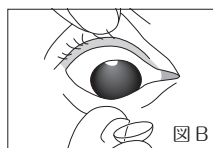
① 患者に上方視させ、レンズをはずす方の手の中指で下眼瞼をさげ、もう一方の手の人さし指で上眼瞼をあげます。このとき、まつ毛のはえぎわを押さえます（図D）。



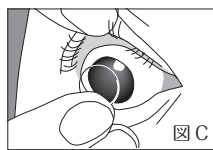
正常

裏返し

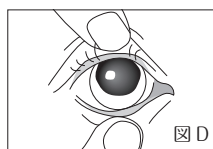
図A



図B



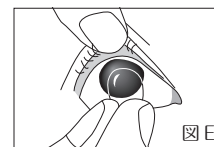
図C



図D

② レンズをはずす手の親指と人さし指の腹の部分で、レンズ下方部をつまみはずします（図E）。レンズがつまみにくいときは、人さし指でレンズを引き上げ、黒眼より下方にずらしてつまんでください。

注意）爪や指先が直接眼にふれないようにしてください。眼に直接ふれると、眼にキズがつくことがあります。



図E

2) 処方後の患者によるレンズ装着脱

（以下のとおり平易な表現でご指導ください。）

(1) レンズのはめ方（方法1）

① はめる眼と反対側の手の人さし指の先にレンズをのせます。このとき、レンズの裏表が正しくなっているかを確認してください。

② 鏡を見ながら、もう一方の手の親指と人さし指で眼を大きくあけます。このとき、まつ毛のはえぎわに指をあてると大きくあけることができます。

③ 鏡をよく見てレンズをゆっくりと眼に近づけ、黒眼の上にそっとのせます。このとき、眼を細めたり、まばたきをするとうまく黒眼ののりません。

注意）レンズをのせるときは、眼に強く押しつけたり、爪をたてたりしないでください。

④ レンズを黒眼にのせたら、眼をあけていた指をゆっくりはなし、まばたきをゆっくりしてください。

⑤ レンズをはめた後は、鏡を見て、レンズが黒眼にのっているかどうかを確認してください。

(2) レンズのはめ方（方法2）

① 利き手の人さし指の先にレンズをのせます。

② 鏡を見ながら、利き手の中指で下まぶたをさげ、もう一方の手の人さし指で上まぶたをあげます。

③ 「レンズのはめ方（方法1）」と同様にレンズと鏡をよく見て黒眼の上にそっとのせます。

④ レンズがうまくのったなら、下まぶたをさげていた指から順にゆっくりはなし、まばたきをゆっくりしてください。

⑤ レンズをはめた後は、鏡を見て、レンズが黒眼にのっているかどうかを確認してください。

(3) レンズのはずし方

① 鏡をよく見てレンズの位置を確認めます。

② 鏡は黒眼が上方に向く位置に持ちます。

③ まず、中指で下まぶたを軽く引き上げます。

④ そのままの状態で親指と人さし指でレンズをつまみはずします。レンズがつまみにくいときは、人さし指でレンズを引き上げ、黒眼より下方にずらしてつまんでください。

注意）

・ レンズをつまむときは、爪や指先が直接眼にふれないようにしてください。眼に直接ふれると、眼にキズがつくことがあります。

・ 爪を立てず、指の腹でつまんでください。爪を立てると、レンズにキズがつき、使用できなくなることがあります。

(4) レンズがはずしにくい場合

① 右側のレンズをはずすときは、左手で鏡を鼻側に持ち、鏡を見てください。

② 鏡でレンズの位置を確認しながら、右手の人さし指で軽くレンズを押さえ、レンズを耳側の白眼にずらします。

③ 白眼にずらしたレンズを右手の親指と人さし指を使って、つまみはずします。

3. 装用サイクルと装用スケジュール

1) 装用サイクル

(1) このレンズは終日装用レンズです。

(2) レンズをはずした後は必ずレンズケアを行うようご指導ください。

2) 装用スケジュール

(1) レンズの装用に慣れるまでのスケジュールは個人差があります。患者にもっとも合ったスケジュールで慣らすようご指導ください。

(2) レンズをはじめて装用する場合は以下の例を参考に装用する時間を徐々にのばし、少しずつレンズに慣らすようご指導ください。なお、時間内であっても無理をして装用しないようご指導ください。

練習期間	装用時間	2	4	6	8	10	12	14	16 (時間)
装用開始から									
初日～2日目	4時間								
3～4日目	6時間								
5日目	8時間								
6日目	10時間								
7日目	12時間								
8～10日以降	14時間以上の装用が可能です。(16時間前後が限度です)								

就寝の際は必ずレンズをはずしてください。

** (3) 装用を中断した後に、再び装用を開始する場合の装用スケジュールは以下のとおりご指導ください。

・ 1日～1週間中断：装用時間を2～6時間減らすこと。

・ 1週間～1カ月間の中断：装用時間を6～8時間減らすこと。

・ 1カ月以上の中断：眼科医の検査を受けてから、指示に従って装用を開始すること。

**4. レンズケア

- ソフトコンタクトレンズを装着していると、涙液に含まれるタンパク質、脂質、カルシウム等の成分がレンズに付着し汚れとなります。これらの汚れをそのままにしておくとう装用感が悪くなるだけでなく、レンズの視力矯正力を低下させたり、細菌やカビの繁殖にもつながり、眼に炎症を起こしたりする場合があるため、ソフトコンタクトレンズは装用後の洗浄と消毒が不可欠です。
- 患者に対し、ケア用品の使用に際しては、使用するケア用品の使用説明書や表示事項を読み、以下のことを守るようご指導ください。
 - このレンズに推奨する化学消毒システム、エピカールドシリーズ（エピカールド、エピカールドアクアモア）による洗浄・すすぎ・消毒・保存が必要であること。
 - レンズを取扱う前に必ず手を洗浄すること。
 - エピカールドシリーズを数滴つけてレンズの表面を各々、20～30回指で軽くこすりながら洗った後、レンズの表面をエピカールドシリーズでよくすすぐこと。
 - レンズをレンズケースに入れ、キャップをしっかりとめ4時間以上放置すること。
 - レンズ装用前にはエピカールドシリーズでよくすすぐこと。
 - 開封後のエピカールドシリーズは、1カ月を目安に使用すること。
 - 使用後のエピカールドシリーズは再利用しないこと。
 - エピカールドシリーズは他の容器に入れ替えないこと。
- レンズケースの管理方法について、以下のことを守るようご指導ください。
 - レンズケースは定期的に新しいものと交換すること。
 - エピカールドシリーズで処理した後のレンズケースはエピカールドシリーズで洗った後、液をよくきって、本体とキャップを伏せて清潔な場所で自然乾燥させること。
- レンズが汚れやすい場合には、エピカクリア（タンパク分解酵素洗浄液）を併用するようご指導ください。

5. 定期検査

**1) 定期検査スケジュール

- 患者がレンズを安全に、快適に使用するため、レンズが眼に適応しているか、レンズに異常がないか、取扱いが正しく行われているか等を定期的に検査し、問題があれば早めに対処してください。
 - 眼やレンズに少しでも異常を感じた場合は直ちにレンズをはずし、予定された定期検査の時期でなくても眼科医の診療を受けるようご指導ください。
 - レンズ装用開始から1週間後、1カ月後、3カ月後、以降3カ月ごとに、又は指示したスケジュールで定期検査を行ってください。
- 2) 定期検査の項目
- 定期検査の一般的な項目を以下に示します。
- 問診：問診によってレンズが指示どおり、問題なく使用されているか確認します。
 - 視力検査：レンズによる矯正視力が良好か、変化がないか検査し、必要に応じてレンズによる近方視力や裸眼視力の検査をします。レンズによる矯正視力に問題があれば、必要に応じて再処方します。
 - フィッティング検査：フィッティングが良好か、問題がないかを検査します。
 - 眼科一般検査：角膜や結膜等の前眼部状態を検査します。フィッティングやレンズ状態が原因で前眼部に異常があれば、必要に応じて指導や再処方を行います。
 - レンズ検査：レンズに異常（キズ、異物や汚れの付着、破損等）がないかを検査し、問題があれば必要に応じて指導や再処方を行います。

** <検査時に注意すべき症状>

- レンズの装用により以下のような所見、症状が発現することがあります。

結膜炎〔感染性（細菌性・ウイルス性）・アレルギー性・巨大乳頭〕、結膜（睑結膜・球結膜）充血、結膜（睑結膜・球結膜）浮腫、睑結膜濾胞、睑結膜乳頭増殖、結膜下出血、睑裂斑炎

角膜炎〔感染性（細菌性・ウイルス性・アカントアメーバ）・非感染性〕、角膜潰瘍、角膜膿瘍、角膜穿孔、角膜浸潤
角膜上皮障害〔角膜びらん、角膜上皮ステイニング、点状表層角膜炎（びまん性・3時-9時ステイニング等）、レンズ固着跡、異物飛入跡、角膜上皮隔離〕、角膜血管新生、角膜（上皮・実質）浮腫、マイクロスist、角膜内皮細胞の減少

虹彩炎（虹彩毛様体炎を含む）、毛様充血、麦粒腫、マイボーム腺炎、霰粒腫、眼瞼下垂、調節性眼精疲労、ドライアイ

- 定期検査の結果、検査所見により処方変更、取扱いの再指導、装用中止、装用時間の短縮等の必要な処置を行ってください。また、装用開始後、疾病、妊娠、出産、薬剤の使用や点眼等による患者の体調や眼の変化、あるいは生活環境の変化によりレンズの装用が不適になる場合があります。

6. 患者指導

- 添付文書の熟読と保管
レンズを使用する前には、必ず使用者向け添付文書をよく読み、表現や内容でわからないところがあれば必ず眼科医に相談し、よく確認してから使用するようご指導ください。使用者向け添付文書は大切に保管するようご指導ください。
- 装用前のレンズ点検と不具合があった場合の対処
装用前に、レンズに破損等の不具合や異常がないかどうかを必ず確認し、あれば絶対に装用しないようご指導ください。
- 装用時の注意
装用中に異物感や痛みを感じたら直ちにレンズをはずし、異常の有無を

確認し異常が認められたレンズは装用しないようご指導ください。

- レンズ取扱い、保管上の基本的注意
レンズを取扱う前には、必ずせっけんで手を洗い、爪は短めに切りそろえるようご指導ください。
- 装用時間、サイクルの遵守
レンズを装用できる時間には個人差があるため、眼科医から指示された時間内で使用し、眠るときは必ずはずすようご指導ください。
- 眼の調子が悪い場合の眼科受診、定期検査の必要性
レンズを装用する前に、毎日自分で眼脂や充血がないか、また、レンズ装着後も、異物感等がないか確認し、少しでもこれらの異常を感じたら、すぐに眼科医の検査を受けるようご指導ください。調子よく装用していてもレンズにキズがついていたり眼に障害が起きている場合がありますので、自覚症状がなくても、眼科医から指示された定期検査を受けるようご指導ください。
- 海外での使用時の注意
患者が渡航をされる場合には、必要量のケア用品を持参させてください。

【使用上の注意】

1. 使用上の注意

- 患者への処方の際に、レンズに破損、異物付着等の不具合がないか必ず事前に確認してください。また、患者に対してもレンズ装用前に不具合がないかどうか必ず確認するようご指導ください。
- 万が一、レンズに不具合があった場合、絶対に患者に装用しないでください。また、患者に対しても装用しないようにご指導ください。
- レンズ装用直後又は装用中に患者が眼の痛みを訴えた場合は、直ちにレンズをはずし適切な処置を行ってください。また、患者に対しても、痛みを感じた場合は直ちにレンズをはずし眼科医の検査を受けるようご指導ください。
- 万が一、装用中又は着脱中にレンズの破損等の異常が生じた場合は、あわてず速やかにレンズを眼から取り除くようご指導ください。
その後、痛み等がなくても必ず眼科医の検査を受けるようご指導ください。
- レンズをキズつけたことがある患者には、容器からレンズを直接指で取り出さずに、軽く容器を振り、一度レンズを保存液と一緒に手のひらに移してから指にのせるようご指導ください。
- 装用中止時の対応として眼鏡との併用をご指導ください。

**2. 有害事象

5. 定期検査《検査時に注意すべき症状》に示した有害事象が発生した場合には、治療をするよう、また、レンズの装用を中止する等の必要な処置をご指導ください。

なお、有害事象は、これらに限定されるものではありません。

3. 高齢者、小児等に使用させる場合の問題点、注意及び処置

- 高齢者使用について
高齢者の使用で、自身の装着脱、レンズケア等が困難な場合には、本人及び家族へ安全装用に必要な指示をしてください。
- 小児使用について
小児にレンズを使用させる場合は、保護者の指導監督のもとに使用させてください。取扱い方法や使用上の注意を保護者にも説明してください。

4. その他の注意

- コンタクトレンズ装用に影響を及ぼす薬剤の情報
経口避妊薬の添付文書の注意事項に、外国では、経口避妊薬の服用による角膜厚の変化によりレンズがうまく調整されないため、視力・視野の変化、装用時の不快感等がみられたとの報告があるという記載があります。
- 眼や皮膚のアレルギー疾患
アレルギー疾患の方は、他の患者よりも眼や皮膚の疾患が起りやすい場合があります。
- 不適切な使用により眼障害にいたる危険性
レンズは眼に直接のせて使用するものです。処方や取扱い方法を誤ると重篤な眼障害につながる場合があります。また、適切な処置をせずにそれを放置すると失明にいたることもあります。
- 点眼液の使用について
防腐剤の入っていない人工涙液型点眼液以外の点眼液の使用は、避けてください。防腐剤の入っていない人工涙液型点眼液以外の使用を指導するときは、レンズをはずしてから点眼するようご指導ください。レンズを装用した状態で点眼すると、点眼液の成分や防腐剤がレンズに吸着して、眼やレンズに悪影響を及ぼす恐れがあります。

**5. 患者の訴えと対応

レンズの装用に伴う自覚症状と、主な原因、対処方法を示します。前眼部に異常を認めた場合には適切な処置を行ってください。また、対処方法に従っても訴えが続く場合は、レンズの装用を中止し、すぐに眼科医に相談するようご指導ください。

症 状	考えられる主な原因	対処方法
異物感、流涙、軽い充血、軽いかゆみ、まぶしい、上方が見にくい	・初期装用でまだ慣れていない	・前眼部状態、フィッティング状態、レンズ状態に問題がなければ無理のない時間で装用を継続するよう指導する。

症 状	考えられる主な原因	対処方法
充血	・レンズのキズや破損 ・レンズに異物や汚れの付着 ・装着時間が長くなり過ぎた	・レンズをはずし、レンズの状態を確認し、異常がみられた場合は、レンズを装着しないで眼科医に相談するよう指導する。 ・レンズに異常が認められない場合は、専用洗浄液で洗浄し、すすぎ液（保存液）ですすいでから装着するよう指導する。 ・装着時間を減らすよう指導する。
装着直後や装着中の急な痛み、しみる、異物感	・レンズのキズや破損 ・レンズに異物や汚れの付着 ・レンズが裏返っている ・眼の中へ異物が侵入	・レンズをはずし、レンズの状態を確認し、異常がみられた場合は、レンズを装着しないで眼科医に相談するよう指導する。 ・レンズに異常が認められない場合は、専用洗浄液で洗浄し、すすぎ液（保存液）ですすいでから装着するよう指導する。
乾燥感、はりつき感、かすみ、くもり	・レンズに異物や汚れの付着 ・レンズの乾燥 ・風が直接眼にあたる ・冷暖房で空気が乾燥 ・涙がすくなく	・レンズをはずし、レンズの状態を確認し、異常がみられた場合は、レンズを装着しないで眼科医に相談するよう指導する。 ・レンズに異常が認められない場合は、専用洗浄液で洗浄してからタンパク洗浄処理するよう指導する。 ・人工涙液型点眼液を点眼するよう指導する。 ・意識的に瞬目の回数を多くするよう指導する。
かゆみ	・レンズに異物や汚れの付着 ・結膜炎	・レンズをはずし、レンズの状態を確認し、異常がみられた場合は、レンズを装着しないで眼科医に相談するよう指導する。 ・レンズに異常が認められない場合は、専用洗浄液で洗浄し、すすぎ液（保存液）ですすいでから装着するよう指導する。 ・眼科医の検査を受けるよう指導する。
見にくさ	・レンズに異物や汚れの付着 ・左右のレンズを逆に装着 ・レンズが裏返っている ・レンズの乾燥 ・眼の屈折状態の変化	・レンズをはずし、レンズの状態を確認し、異常がみられた場合は、レンズを装着しないで眼科医に相談するよう指導する。 ・レンズに異常が認められない場合は、専用洗浄液で洗浄し、すすぎ液（保存液）ですすいでから装着するよう指導する。 ・意識的に瞬目の回数を多くするよう指導する。 ・眼科医の検査を受けるよう指導する。
眼の疲れ	・装着時間が長くなり過ぎた ・睡眠不足、疲れ眼 ・長時間の読書や細かい作業をやり続けた ・左右のレンズを逆に装着	・装着時間を減らすよう指導する。 ・定期的に眼を休めるよう指導する。 ・意識的に瞬目の回数を多くするよう指導する。 ・レンズの左右を確認するよう指導する。
はずした後の痛み	・装着時間が長くなり過ぎた ・はずすとき、眼をキズつけた	・痛みがすぐにおさまるようであれば、翌日から装着時間を減らすよう指導する。 ・眼科医の検査を受けるよう指導する。
レンズがずれる、はずれる	・レンズが合っていない	・慣れてからも症状が改善しない場合は、眼科医に相談するよう指導する。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

1. 貯蔵・保管方法

- ** 1) 直射日光及び凍結を避け、室温で保管してください。
2) トライアルレンズ使用後は必ず洗浄及び消毒をしてください。

2. 使用期限

- 1) レンズの使用期限は、レンズ容器本体に記載されています。
2) 使用期限を過ぎたレンズは使用しないでください。

【保守・点検に係る事項】

- 1) 本レンズの使用後は、必ず化学消毒又は煮沸消毒を行ってください。
2) トライアルレンズは、一患者に使用した都度、必ず洗浄と消毒をしてください。
3) レンズの耐用年限については、定期検査時等に、継続して使用可能かについて相談された眼科医がご指導ください。

【包装】

1 枚入り

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

** 1. 製造販売業者

株式会社メニコン
名古屋市中区市場木町390番地
電話：052-908-2472

* 2. 製造業者

株式会社メニコン

3. 販売業者

株式会社メニコン
名古屋市中区葵三丁目21番19号



07742-04/14918